



のぞみ 希望

学校ホームページアドレス <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/sugita>



「深い学び」に向けて

校長 若色 昌孝

再来年度（2020年度）より、全国の公立小学校では、新しい教育課程（新しいカリキュラム）がスタートします。国は、目指す新しい学習の姿を「主体的・対話的で深い学び」という表現で示しています。

先日、校内の授業の様子を見て回っていた時、2年生のあるクラスで「2けたの引き算」の筆算の学習をしていました。問題は、 $67 - 64$ でした。1の位は $7 - 4$ で3、10の位は $6 - 6$ で0でした。「03なんておかしい。」「10の位の0はいらない。」という声上がり、10の位にはその0を書かずに答えは5となることを全員で確認しました。

次の問題は $50 - 30$ でした。1の位は $0 - 0$ で0、10の位は $5 - 3$ で2、答え20となりました。この時、ある子が、「1の位の0は書かなくていいんじゃない？」と発言（つぶやき!?!）しました。私は、よくぞ

67	50
$\underline{- 64}$	$\underline{- 30}$
03	20
↑	↑
いらない!	いらない!?

言ってくれた!と思いました。ここからが、まさに「深い学び」の入り口です。先生が「1の位の0は書きます。」「書かなかつたら、ただの2になってしまうでしょ…」と教え込んでしまえば、それで終わりです。子どもは分かった「ような」感じになります。しかし、0を書かなくていいのか、書かなくてはダメなのかをクラスみんなんで考えることにより、子どもの思考はぐんと深まり、理解は確かなものになりました。一見、この子の発言は正しくない認識であり、1の位の0を書かないことは誤答です。しかし、この一人のつぶやきこそ、授業で生かされるべき、まさに価値のあるつぶやきでした。

この子は、次の算数の時間には、「繰り上がりのある計算は、確かめ算をするとくり下がりがあり、繰り上がりのない計算は、確かめ算でも繰り下がりが無い。」と発言、いや、発見!したそうです。担任の先生は、嬉しそうに私に報告してくれました。（私自身、すごい!と思いました。）

私たち、杉田小学校でも、18年度、19年度を、20年度から始まる新教育課程の準備期間と位置づけ、今年度より、新しい授業のあり方、新しいカリキュラムのあり方を検討し始めています。先日、運動会明けの5月29日（火）には、教育委員会から指導主事を招聘し、これから実践すべき「主体的・対話的で深い学び」の授業のあり方を勉強しました。もちろん、今回だけではなく年間を通して新しい授業のあり方を研修・研究してまいります。

$17 + 5 = 23$ (繰り上がりあり)
$23 - 5 = 17$ (繰り下がりあり)
$12 + 7 = 19$ (繰り上がりなし)
$19 - 7 = 12$ (繰り下がりなし)

2020年度からは、英語の時間もさらに20時間増え（20時間と言えば5時間授業4日分!）、今まで杉田小学校が行ってきた教育課程（学校のカリキュラム）を、同じよう行うことは難しくなります。全国の学校の動向を見据え、また職員間で知恵を出し合い、新しい杉田小学校の学びを創ってまいります。